

【令和5・6年度鳥取県公民連携推進事業 成果報告】

ライフステージに応じて途切れのない支援が行き届くためのサポート

1. 事業実施団体

【一般社団法人スペースソラ（鳥取市）】

誰もが生き生きとそれぞれの世代をその人らしく生きる社会の実現に貢献すること、「楽しい」「癒やし」「学び」「仕事」など、一人ひとりに合った「時間」に寄り添うことを目的として設立された団体。シェアスペースの運営をはじめ、託児事業、各種スクール開講、放課後スクール運営など、子どもも大人もワクワクし、それぞれの毎日をよりよく過ごすためのサポート事業を実施した。

2. 県の協働担当課

【子育て王国課】（子育て応援担当）

「シン・子育て王国とつとり計画」の進捗管理をはじめ、子育て王国とつとりとして、子ども家庭部の他担当が担わない、県内の子育て当事者の支援にかかる業務全般を行う部署。

【家庭支援課】

不妊治療費助成、ひとり親家庭支援、児童扶養手当、DV被害者支援、児童虐待防止、青少年健全育成などの事業を行う部署。

3. 課題及び目的

少子化や共働き世帯の増加、地域のつながりの希薄化などにより、子育て環境を取り巻く環境が複雑化している。一方で、妊娠・出産・乳幼児期・就学期、また、仕事復帰のタイミングなど、ライフステージの変化に応じて行政の支援制度や制度の担当部署が変わる中で、家庭に継続的に支援が行き届く体制が十分に整っているとはいえない。事業実施団体の既存事業において、保護者から「最初から行政の相談窓口に行くことには抵抗がある」「仕事があり日中は相談できない」「どこに相談したよいかわからない」「情報が溢れていて必要な情報を得られない」などの声を耳にすることから、ライフステージごとに必要な支援が一目で分かるような一元的な情報提供体制の整備が求められていると想定される。このことから、子育て世帯がライフステージに応じて、必要な支援を受け続けられるよう、SNSを活用した相談窓口の設置や各種取組の情報発信など、行政と民間事業者等が連携した「切れ目のない支援体制」の構築の検討を目的とした。

4. 課題解決の手法

（1）「助産師さんによる何でも相談の日」の開設

- ・月2回程度「助産師さんの日」を設け、病院に行くほどではないちょっととした質問や産前産後の悩みが大きくなる前の相談などを専門職に気軽に相談し、アドバイスを受けられる環境を整える。
- ・利用者同士のつながり、保護者の安心できる場づくりを行う。



（2）LINE相談窓口の開設

- ・日々の子育ての悩みや困りごとについて、LINEで気軽に相談・質問できる環境を整える。
- ・メッセージの受付は24時間とし、夜間対応（21時～24時）のスタッフを設置する。深夜から早朝の相談は翌日営業時間内に対応する。

（3）行政と団体の取組を相互に情報発信

- ・県職員と意見交換会ができる場を事業実施団体の会場に設け、保護者の声を直接届ける。
- ・県と事業実施団体の双方でイベント情報、取組内容などの情報発信を行い、一人でも多くの人に適切な時期に情報を届ける。

5. 主な役割分担

【事業実施団体】

- ・「助産師さん何でも相談の日」及び「LINE相談窓口」の運営
- ・意見・要望などを集約し、必要に応じて支援機関や県と共有
- ・SNS、チラシ等での情報発信



【行政】

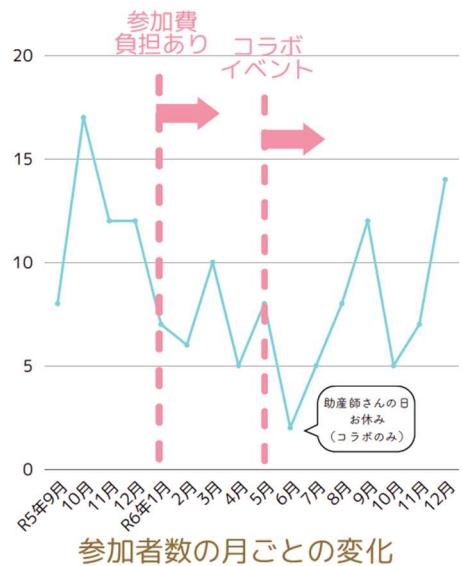
- ・各相談窓口の開設・運営に向けた助言・支援
- ・意見交換会への参加、行政への意見・要望などを施策に活用
- ・団体の取組の情報発信

助産師に育児相談

6. 取組と成果

(1) 「助産師さんによる何でも相談の日」の開設

- 妊娠中、産後1カ月から2年程度の方が利用。乳児や産前産後の具体的な相談以外に、話し相手を求めて参加される方も一定数あった。出産後、社会との関わりがほとんどなく、孤独感を持たれている方もあり、「専門の職員に気軽に相談でき不安が解消された」「家族以外の人とゆっくり話せてうれしかった」などの声が聞かれ、参加を機に心身のリフレッシュや参加者同士の交流につながるなどの効果があった。
- 令和5年12月までは参加費無料で開催。令和6年1月以降、保険代等に充当するため月ごとに会員から550円を負担するものとした結果、1回あたり5組程度あつた参加者が1から3組程度に減少。12月までは毎回新規の方の利用があったが、1月以降は年会員の利用が多かった。有料だと分かると参加されない方もおられ、少額でも参加費負担がネックとなることが分かった。
- 参加者から「子どもを預けて自身のメンテナンスを行う時間の確保が難しい」という声が多く聞かれたことから、親子のリフレッシュや学びの機会として、助産師さんの日に合わせたコラボ企画（外部講師を招いたマイクレッスンや整体体験会、作業療法士による発達相談会、月齢写真撮影会など）の充実を図った。相談日の利用者数の回復に少し効果があったと思われる。



参加者同士で交流



マイクレッスン



月齢写真撮影会

(2) LINE相談窓口の開設

- LINE登録者数は事業開始時の3名から88名に増加した。利用者数は1日あたり1~2名、相談時間は22~24時までの子どもを寝かしつけた後が多かった。
- すぐに解決を求められる、専門機関につなぐ必要がある相談よりも、育児の大変さや日々の反省をつぶやくような内容が多く、傾聴することで安心・満足される傾向にあった。対面でなく気軽に話せる居場所としての役割が大きかったと思われる。

(3) 行政と団体の取組を相互に情報発信

- 子育て王国課職員の方、スペースソラ利用者、事業実施団体スタッフによる意見交換会を2回開催した。出産期から乳幼児期の支援、地域の子育て環境（居場所や遊び場）、子育てしやすい職場環境などをテーマに話し合い、子育て中の母親のリアルな声を直接届けることができた。
- 事業実施団体の職員体制では、事業実施団体側から県への情報発信の依頼、また県の定期的な情報発信を行うことが十分にできなかった。
- 県の「とっとり子育てプレミアムパートナー」に登録することで事業実施団体の情報発信を効果的に行うことができた。



意見交換会

7. 事業終了後の状況

- 子育て世代にとって必要とされる場や機会となる事業だったが、事業での収益が見込めず、自己資金での運営が困難となつたことから本事業は終了。（既存事業は関連会社に一部継承）
- リピーターが一定数あった「助産師さんによる何でも相談の日」については、今回事業の拠点を会場に県委託事業の「助産所オーブンデー」として開催が継続された。
- 本事業は終了となつたが、産前産後ケアに関して各取組で得られた知見は、県のサイト改修やアプリ改修などの情報発信分野で県の子育て支援の施策に活用されている。